

2024 年度学生による前期授業評価アンケートへの

教員からのコメント

■Web デザイン I/小泉 真也

■感想・意見の傾向が同様のため、全担当課目に一元的に以下回答します

▼難しい言葉で説明するからわかりにくい。わかりやすい言葉で説明して欲しい。資料等が専門用語が多く参考にならない。

既に、本学で情報学を学んで1年がたっており、その状況下で ” 専門用語を使うな ” というのであれば、もはや情報学的なコミュニケーションは困難と考えます。

” 難しい言葉 ” がどの分野のものであるか、具体的な指摘が無いので思案していますが ” 頻繁 ” みたいな言葉を難しいとするのでしたら、語彙を増やしていただきたいをお願いします。

何より、わからないことに対する質問の機会を設けておりますが、担当講義では、ただの一度も、直接的にも間接的にも質問をおあずかりすることはありませんでした。加えて、このアンケートは端末を通じて回答しているはずですが、その端末で調べることもできたのではないかと考えます。

▼課題が多すぎ。課題の提出期間を伸ばして欲しい。課題の意図がわからない。課題を提出しないと出席無効は厳しい。

文部科学省の定めでは、2 単位の授業は教室内での授業時間と家庭等での自習時間を合わせて、合計 90 時間の学修を意味することはご存じでしょうか。授業時間の 90 分×15 回では到底足りません。不足分を補うために毎回の課題は必須です。提出期間を延長すれば、課題の実施回数が減ることになり、2 単位 90 時間を満たさなくなります。また、過去には3週間以上の提出期間をとった結果、提出日を忘れて、却って未提出が増えたこともありました。

その課題の内容・意図は、およそ、スライドの資料の範囲や、インターネットの検索から解決に至る、負荷の低い設定をしており、手順やアプローチについても、あらかじめ口頭および過程を見せながら説明をしています。

なお、ここでもですが、課題にも質問の機会はどうしていますが、質問はほとんどありませんでした。

▼少しの遅刻も許さないのは厳しすぎる、オンラインの出席の時間が短すぎる
禅問答のようですが、原則論として遅刻は許されるものでしょうか？

時間通りに来たところで、既に講義は始まっており、その間にコンピューターの電源を投入し、ログインをするのです。そのロスが遅刻者にとってデメリットでしかありません。おのずと時間前に準備して待つのが是であると気付くと存じます。

オンラインの出席は、不定期の呼びかけに応じない場合に出席を無効としており、ご意見のような ” 資料などの理解に集中していた ” という回答は、基本、無効にしています。ただ、同じ理由で出席に参加しなかったということを繰り返すと、相応に疑問は残ります。オンラインのみなさんは、だれひとり画面（顔出し）を有効にしています。そうである以上、コンピューターの前にいるかは確かめようがなく、授業に 100% アプローチしているかは、抜き打ちの出席以外に確証のある確認は困難と思います。

オンライン出席の時間は、レスポンスが極めて遅く、毎回 ” トイレ ”、” 宅配が来た ”、” 家族に呼ばれた ” の言い訳を繰り返すケースから、その傾向をふまえて 1 分と設定しています。これも、授業期間中にご意見があれば見直す準備はしていました。